

ま え が き

本道の農業は遠く明治初期の開拓使時代より、酪農と密接不離なる関係において成立してきた。最近にいたり酪農が、農業生産の成長財とよばれ、ますます重要視され、その発展を期するために多頭飼育、草地農業などの畜産占業化に進まんとする状勢にある。

この酪農発展のための基本となるものは、何といたっても家畜飼料の牧草の生産を向上させるよりほかに手段はない。従って過去においても牧草および牧野の試験研究が数多く行なわれ、酪農推進に大きな貢献をしてきたのであるが、最近の飛躍的發展をはかるためには更に牧草の生産を増強しなければならない一大転換期にあるといえることができる。この時に当たり北海道立農業試験場における極く最近の試験成績ではあるが、これを取りまとめ発表して牧草生産の資とするとともに、今後再出発する試験研究への参考とし、研究者にあってはますます努力されんことを望む次第である。

昭和 39 年 3 月

北海道立農業試験場長 秋 浜 浩 三